

俺俺同人が妹の
描かないが
わけがない



busou



megami





わだわだごっちの
ちから強いかけて
あげんてのて

えんげんから
...



何心もないわけ
ないだわ

ホントに何ぞもないたら...
触るないび...

ちよ、し見せんけろ!!



な、何だよ、えのアガ...
帰りに何かあったのか?

な、何心もな
わよ...



X file

…沙織のやつ…いゝら何ぞや
中学生にニンヤ…



…キョウ…バレたのだ
恥ずかしく思わず
さっさとまたんだらうが

糸介のセクシー
コレクション

こうなるのをう
引外ないからな

んんん

あうう

ギ、キツイ、
んげ…

えん引張ん
おんげ!!

うーぜーけよ…
そう言おうもんねちうか
ヤマン(ちよ)

はうう





……はら……

これ七満足外……？

……何れ……と……を……遠……て
……変な感じ……

……じんじん……
身体……熱……なる……



……えん！？
何……何を……

……こんな所……
終わ……せ……る……の……も……り……？

……じん……じん……
……を……
……待……ん……よ……



……女……女……
か……く……い……よ……

……ん……
……ん……
……ん……

……は……し……も……
小……ん……も……ち……ん……
柔……ら……い……ん……だ……

……し……ん……る……ん……
女……が……ば……か……ら……う……な……よ……

……た……ん……好……を……階……
……い……だ……ん……し……い……の……
オ……レ……に……じん……打……忍……ん……

わ……悪……い……ら……

痛……何……ん……の……よ……





お前...
ひょろろ... 濡らした...

だんごは...
こんど...

たんごな...

あん...
ちん...

ちん...

こころな...
おれん... 感じ...
ない... !!

おれん... オレ...
株の... 女...
解... なる...

何...

何...
この何...
高揚感...

やめた...
やめた...

うっせえ...
普段のお返しだ
...の...!!

あ...
あ...

あ...
あ...

痛い...
痛い...

あ...
あ...

どうだ...
桐乃!!

た...
こんな...

お嬢さん...



ああ、もう又
こんな激し...

動かないで

ハカ兄貴...

た、誰が...

...低級な方の毛
最終の刀也...

こういふ肉体を
与わせんれば...

これ外らえとし
オレを包みし組うん行
...考えんやんをいよ

うわ

うわ





昔のようにまた
仲良し出来ぬんじや
ないか……

……あ、あ……

どうだ桐乃……
大人用のバイブの味は……

……と……まア……

は、ん……

……ん、れ、い、じ、め、ん……

わ、た、ら、オ、レ、の、シ、ョ、ウ、コ、ト
……素直に聞えんわ

うん♡



俺は俺妹の同人を描かないわけがない

“おれ妹”です。別に流行りに乗、おれたわけではなく、私自身、妹毛/が大好きで、商業誌でも何本を發表しています。妹毛/は2011以降、今までの大きな市場で認知されていますよね

ただ…そう、2011年にも作らしたこれらのものはあくまで“妹萌え”というジャンル。

妹毛/に対して、尋常ならざる愛情を持ち、あるいはアイドルジャンルでは平然と一線を越えようとしている。こう言ったら倫理を逸脱した事を堂々と萌え”と言ってしまうのは、あくまで“ジャンル”であるからだと見える。逆に言えば、アニメにおいて“妹”という存在は今やリアル妹のいない人達にとっても偶像崇拜的な存在として描かれなくなると言うのが現状と見える(よう)。そんな中、この現状に“異”を唱えるべく降り立ったのが今回の“おれ妹”という作品(…!)

向いそタイトルにこれほどストレートに“妹”と冠している作品はあっても関わらず、内容的にはまさに今のアニメ界に存在する萌えな妹達をあげ笑うものごとく、兄に対して愛情をまったく言っていないほど示さない鉄の妹の物語。こう書いてしまうと結構大げさに聞こえるけど、実は桐乃の京介に対する接し方、極めようという態度だと思ふのこそね。

リアル妹がいなくても、現実の妹なんでもこんな感じなのだとこのこと平に取るように伝えていると言いますね…

また、異性だからこゝろ余計にリリケトになつておれという所がある、どツンツンな妹に対して何を言えない京介の気持ちに痛いほど伝えているのこそね。ただ、ここは大きく

ヒキッているのに、そんな妹毛/の“オチ”であるという点。この設定により、遠い存在になるはずの桐乃というキャラクタは、一気に我々の所に降りてくるというワケです。

また、自分が妹なのになら“妹毛/”が好きというのには…これは別にB2的なモノでアム(じ)わ。これ、込み所があるのこそね。このアニメはそんな桐乃のオチであるから

故の悩みと云うのを真正面から描いているのも大きな特徴と云え… 例えはこう言、た趣味に理解を示さないオヤジであるとか、オチは犯罪予備軍であるとか、おれと桐乃諸氏が見るアニメの中心、こう言、た問題を取り上げるというのには画期的なことだと思ふ。

“おれ妹”に決して前評判倒れになつていないのは、こう言、たリアルな描写をすごく大切にしている。例えはオチ会心な外な周囲となじめない様子ばかり、たリとか…友人との確執ばかり、たリとか…

こう言、た部分がある種、いつか、桐乃と云うキャラクタをより身近に感じさせるのに一役買っているのこそね。特に京介に対して妹毛/をプレイするよう強いる場面はほほえましいというか…

この兄妹の關係もまた大きな部分で、「妹毛/」が好きなのに自分はえ(じ)わ(ない)の外」という京介の空、込みに対し、自分と云う言關係になりたつていると断言、た桐乃に躊躇なく「オチい!!」と言、ておれ…

え、こゝも第五話において、桐乃が京介にそんな態度を取り続ける理由の一端は垣間見えて… 改めて兄妹の絆を取り戻そうとする京介の姿が良か、たです。これ以降、二人の關係は明らかに変つてきている…

特に第六話はそれを象徴するような話心(たね)。この回は京介が地味子の家に泊まりに行き、家を留守にするという話心。桐乃の出番は少ないのこそね。もうとなく桐乃が可愛、こゝこの上かい(笑)

兄の部屋がアートを足心こがいていたり、

